

2019年3月28日

質疑応答

Q トリアージについて、たとえば小さな子供がいて熱が出たとか、嘔吐したとか体調不良になって、トリアージを受ける時に、トリアージを信用できるのか。

A トリアージは経験のある看護師が行うため、かなり正確。担当の看護師は非常に高度な訓練を受けている。自分から見て、大人に対して外れたことがない。子供に対しても外れた話を聞かない。

明らかに血圧が下がっているとか、けいれんがあれば、最優先トリアージになり、重症な人の入るところに入れられる。

そうでない場合、要観察エリアに入れられる。そこで万が一、最初の判断が少し外れていても、頻繁に見ている。状態が変わるとすぐにトリアージのレベルが上がる。

子供の場合は親がついているので、状態が悪くなっていると思ったら遠慮無く訴えること。看護師を呼んで見てもらって、大丈夫なら良いでしょう。

Q 大人は、ある程度、自分の体調が分かる。それなりに体調を理解して医師にかかれるが、子供の場合は、どれくらい深刻な病気なのか親から見て分からない。それで不安になるし、トリアージで見てもらったのが正しいかも分からない。説明不足も感じる。その場合こちらから積極的に聞いた方がいいのか。

A いいと思う。基本的にトリアージは、見た目での観察、ほかに血圧脈拍、意識レベル、痛みへの反応、客観的なものから判断している。まずトリアージは信頼して良い。ただ、親が見ていてどんどん状態が悪くなっているようなら、遠慮無く言った方が良い。

実際に病院に連れて行くかどうかの判断が、大人だと自分で判断できる。子供だとどうしても心配になる。心配だったら連れて行って、ただしトリアージで後に回されたら、安心料だと思って待つ。割り切りが必要だと思う。

プライベートクリニック、スーパークリニックでも子供は見てもらえる。心配ならそこからスタートしても良いかもしれない。

子供で高熱が出た場合、ぐったり動けないような場合は、親の方が参ってしまうので、連れて行って安心した方がいい。

Q 持病について。持病があつてこちらに来た場合、これをどうフォローしたら良いか。

子供ならたとえばぜんそく系だと咳が続く。

またアレルギーなど、すぐ治らない病気を持っている場合、どのように医師にかかった

らよいか。

A 家庭医のレジストレーションにおいて、持病の説明をするところがある。子供のぜんそくなら優先してもらえと思う。登録の中で、「医者にかかりたい場合に」というリンクがある。そこをたどっていくと、子供で、ぜんそくで薬を飲んでいる、となると優先順位が上がると思う。

オンラインでやるより、そういう場合 CLSC へ行った方がいい。もしくは家庭医のグループに行って、持病を説明する。こういう状態だから家庭医が必要だと訴える。基本的に持病で投薬が必要な場合や、投薬の調整が必要な場合は、優先順位が上がる。

Q 旅行者で、英語やフランス語が出来ない人が病院に行った場合どうなるのか。

A 通訳が呼ばれる。私も実際に呼ばれたことがある。多国籍文化なので、病院内でも放送でベンガル語が話せる方や、スワヒリ語が話せる方がいないかと流れる。だいたい日本語の場合では、院内に数人はいる。

Q 自己防衛、自己主張していくというところで、質問を準備する場合。質問ありますか、と言われて何を質問していいか分からなかった。日本だと医師側から言ってもらっていることが言ってもらえないので、こちらから質問しなくてはいけないのだと思うが、どういうふうに質問を準備したらよいか。

A あまり難しく考えないで、普通の生活に戻るまでのすべてが分からないので、回復までを考えてみて、すべてを聞いたらいいい。たとえばギブスが外れるまでどれくらいかかるか、ギブスをしている間に入浴できるか。ギブスが外れたらリハビリが必要なのか、痛み・かゆみはどうしたらいいか、など、分からないことばかりだと思う。すべて聞いたらいいい。医師の方は聞かれたら答える。特に専門医だと多くの例を見ていて、医師から見ると当たり前になってしまっているのに、何を説明したらいいか頭が回らない。また、医師以外の医療チームのメンバー（看護師など）でもかなりの質問に答えられる。

Q 一時帰国中に、唇にヘルペスができた。薬局で薬剤師に聞いたら、医師の診断と処方箋がないとその薬は出せないと言われた。こちらの薬局でも薬にそういった制限があるのか。

A 制限はあるが、日本に比べて処方が不要な薬が圧倒的に多い。日本では処方箋がないと出してもらえない薬でも、こちらでは処方箋無しで出してもらえる薬がけっこうあるので、まずは薬局で聞いてみる。処方が必要な時は、ウォークインクリニックとかスーパークリニックに行けばよい。薬剤師たちは「薬がほしい」と言ってきている旅行者などについて

は、スーパークリニックへ送っていると言っていた。処方だけ書いてもらうことが出来る。欲しい薬が分かっている場合、処方が必要だと言われたら、あまり待たなくて良いクリニックを受診する。

支払いについては、ウォークインクリニックではお金がかかることが多い。

Q ものもらいで、自然治癒はしないが切ってもらえたら治るとか、そういう場合はどこへ行ったらいいか。

A スーパークリニック、ファミリーメディスンで対応してもらえる。もしくは CLSC。CLSC は看護師がいるので対応してくれると思う。

Q めがね、コンタクトについてはどこへ行くか。

A こちらでも処方箋が必要だが、眼科に行く必要はなく、オプトメトリスト、いわゆる街の眼鏡屋さんへ行く。予約が必要だと思うが、予約はすぐに取りれる。眼の検査をしてくれる、眼科医ではない眼の専門家で、眼の中、網膜症や飛蚊症も見られる。有料。

Q プライベートクリニックの相場観について。軽傷で行った場合、例えば100ドル持って行けば大丈夫なのか、とかあれば教えて欲しい。

A 答えられないので、もし会場の皆様の中でかかった人があれば教えてください。

・・・会場より、「ウォークインクリニックで、Medicare カードを持っていなかったの
で、一律200ドルだった」との答えあり。

直接聞いてみなくては分からない。クリニックによって違う。RAMQ の支払いが受けられる場合もある。スーパークリニックはすべて RAMQ なので無料。GMF も無料。いわゆるプライベートクリニックは高くなる。

たとえば腹部超音波の場合、公立では無料、プライベートへ行くと250～350ドル、検査が難しくなると当然、値段も高くなる。

たとえば腰部 MRI の場合、公立では無料。自分がプライベートで行った場合900ドル程度かかった。検査が込み入るものになると値段が高額になる。

待ち時間と値段をはかりにかけて考える感じになるでしょう。

Q 一時帰国で人間ドックに行って検査の結果が少し引っかけた場合。こちらにすぐに戻ってくるので、その後の検査をしてもらえるのか。日本語の検査結果を持って行って、こちらで見てももらえるのか。

A 日本の医師に、英語の紹介状を書いてもらわないと、こちらでは検査結果を読めない。日本とこちらの単位が違うために、データを読みにくい。また、漢字やひらがなが入ると無理。最低限、何についてのフォローアップが必要かということ、英語で書いてもらうか、説明を受けて理解していれば、あとはスーパークリニック等で良いと思う。

Q 歯科について

A 歯科は完全に医療システムが別で、歯科は日本と同様に考えられる。個人病院で、競争もあり、顧客サービスが期待できる。政府からの支払いはないので、職場関係の保険を使っている人が多い。クリーニングは6ヶ月ごとカバー、またレントゲンもカバーされる。

日本語を話す歯科医もいるので、周りに聞いて評判の良い歯科を探したら良いでしょう。

Q 日本人医師がこちらで開業する可能性について。

A モントリオールで医師免許を持って仕事をしているのが、自分が知る範囲で3～4名だが、大学病院勤務のため、開業はしないだろう。

アメリカと事情が違い、医師のポストをすべて政府がコントロールしている。医学部入学人数も政府がコントロールしている。

外国人が免許を取る時点で制限がかかる。日本から開業の意思を持ってくる場合、まずポジションを取るところからで、そのあたりは政治的なものであり、現状では難しい。

Q 日本の医師も、こちらで認めてもらわないといけない。試験を通るという客観基準ではなく割り当てがあるので、どんなに能力があっても政府の決定次第で決められるということか。

A 試験は当然通る必要があるが、試験に合格してもポジションを取れない場合がある。日本人に限らず、外国の医師免許を持つ人がこちらの資格試験に通っても、カナダでは激的な競争に勝ち残らないと、研修医になるポジションが取れない。ケベックだとその枠が限りなく0に近いのではないか。

また、資格試験はすべて通る必要があり、ケベックではフランス語関係の試験も必要。

以上